

Bコース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	株式会社 Dot Frame			
所在地	東京都港区新橋2丁目9番16号			
業種	L 学術研究、専門・技術サービス業			
常用労働者数	14人			
事業内容	テレビ、ラジオ番組の企画、制作広告宣伝に関する企画、制作及びコンサルティング各種イベントに関する企画、制作、演出			
ホームページ	https://dotframe.co.jp			
1 ニーズ調査				
①実施日	令和 元年 10月 15日			
②方法	調査票を都内に勤務する全従業員に配布			
③回収率	対象者(都内全従業員) 11名のうち回収数 11名 回収率 100% (回収数/対象者)			
④調査結果概要	<p>(調査により明らかになった課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について 現在介護をしている人は0人 今後の従業員の介護見込みについて 今後介護をする可能性がある人は半数おり、介護をすることに対して不安を感じている人が多数 →職場の上司や同僚の相談できるような雰囲気を作る。年に2回程度の社長面談。 評価シートでは、チェック項目にいれ、このような支援が必要か確認する 就業規則、規程内の介護関係制度に関する認知状況について 過去に取得した人がいない事もあり、認知度は非常に低く、制度がないと思っている人もいる。 →介護関係に関する、労働局からのパンフレットを配布。 必要としている人に必要な制度を届けられるよう、就業規則、介護制度について周知する。 介護と仕事の両立に関する不安について介護をすることになった場合、 できるだけ働きながら仕事と介護を両立したいが8割。「今の勤務先で介護を続けながら仕事ができるか?」は、「続けられない」や「わからないなど」自信のない回答も目立つ。 公的介護保険制度などの支援制度がわからない人が多く、両立することで、昇進、昇格などに影響がでると感じている人もいる。 →辞めずに両立することを推進。仕事を続けていれば、安定した収入が入る。 そのお金で介護保険や自治体、民間のサービスを利用することができ、 自分一人で介護を背負い込むのではなく、外部サービスを上手に利用しながら介護を続けていくことを考えることも可能。離職防止のための会社作りをする。 介護が続いた場合の望ましい働き方及び社内制度について 介護が必要な時期は休業制度を利用して、自分が介護をして、その後仕事に復帰する2割。様々な支援や短時間勤務などの利用をし、できるだけ普通に働き続けたいが8割。 社内制度の認知度は非常に低い。 →職場に「家族等の介護を行っている」ことを伝えられるような面談を設け 必要に応じて、休業93日以内、5日以内の休暇、時短制度など、 「仕事と介護の両立支援制度を利用」。 			
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況				
①設置日	令和 元年 10月 1日			
②メンバー	総計 3名(うち都内勤務の従業員 3名) (メンバー内訳) 代表取締役・総務部人事課 社員2名			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	10月 1日	10:00~11:00	活動内容及びスケジュールの確認	2名
	10月 16日	10:00~11:00	アンケート調査結果、概要説明、社内周知に向けての目標決め	3名
	10月 30日	10:00~11:00	取り組み結果について確定	2名
3 策定した取組計画(内容及び取組時期)				
令和 元年 11月~ 定期的な個人面談の実施(年に2回程度)				
令和 2年 11月~仕事と介護の両立に関する研修の実施(年に2回程度)				